

鳥取・大谷遺跡

おおだに



(米子)

大谷遺跡は、JR米子駅の南500mに位置する低湿地遺跡である。今回の調査では、弥生時代前期から中期にかけて形成された水田が検出されたほか、中世末期から近世初頭にかけての遺物包含層が確認された。木簡は、この遺物包含層から一点出土した。共伴遺物には、瀬戸美濃系の皿や胎土目積みの

- 1 所在地 鳥取県米子市大谷町
- 2 調査期間 一〇〇七年度調査 一〇〇七年(平19)五月~一月
- 3 発掘機関 (財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
- 4 調査担当者 佐伯純也
- 5 遺跡の種類 生産遺跡
- 6 遺跡の年代 繩文時代~近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

唐津皿などがある。

- 8 木簡の釈文・内容

(1) 「已」一月廿一日大谷村□□

(172)×25×5 019

木簡の下端は欠損し、文字が判読できない。裏面は風化している。樹種は、ヒノキ科アスナロ属である。遺跡の所在する大谷町は、近世には大谷村と呼称されていたが、その成立時期が中世にまで遡るのかは不明である。

(佐伯純也)